

# まちを見守り続ける 赤塚新町の

# “オヤジ”たち

モノクロの昭和写真を集めたスタイリッシュな写真集、『赤塚新町の昭和』が話題を呼んでいます。作ったのは、地域の“オヤジ”たちで構成される「クラブ・ジャビー」だと聞き、さっそく会いに行ってきました！



小学校の父親たちの会『ジャオクラブ』を立ち上げ、スポーツ大会やゲーム大会などを企画していました。ジャオは、オヤジをひ

つくり返したネーミングです(笑)と、三枝さん。

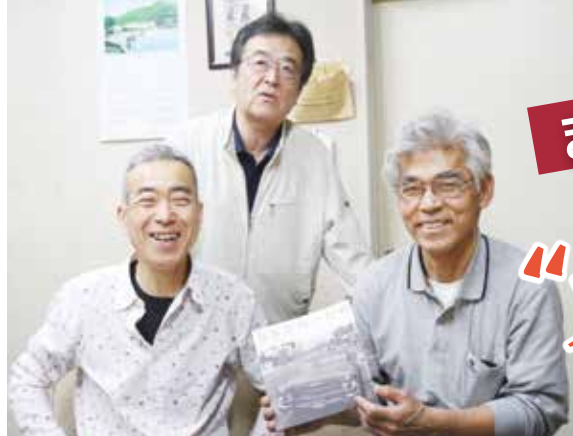
子どもの卒業後も交流は続き、2006年にジャオクラブのOB会を結成。のちに「クラブ・ジャビー」となりました。

主な活動は、お母さんたちと一緒に地域イベントの手伝いをしたり、演奏活動やスポーツで交流を図ったり。

「2016年に10周年を迎えた際、その記念事業と、社会的貢献という2つの目的で、写真集を発行することになったんです」

## 懐かしの昭和を 物語る写真

ページをめくると、チンドン屋にオート三輪、川越街道の古い商店に、グラントハイツの



左から、納富進さん、坪谷龍一さん、三枝節夫さん

## 「クラブ・ジャビー」とは？!

出迎えてくださったのは、代表を務める三枝節夫さん、事務局の坪谷龍一さん、そして写真集の制作を担当した納富(のうとみ)進さんの3人です。まずは「クラブ・ジャビー」とはどんな集団なのか、教えてくださいました。

「20年ほど前、私が赤塚新町小学校のPTA会長をしていた時に、赤塚新町

で、作りたいものを楽しく作らせてもらいました(笑)」

「どうりで、オシャレなデザイナーに納得です！」



「すでに400部以上売れています」(三枝さん)

ある街の資料としても貴重だと思えます。また、古い写真を見ながら、現在の風景と比べてみると、楽しみ方もありますよ」

## 想定外の反響に びっくり!

写真集の発行は2017年4月1日、印刷部数は500部。地域の町会の花見の席で販売したり、チラシやポスターを作ったりしていたところ、4月上旬に全国紙に掲載されたとたん、「一気にブレイク！」

「新聞に載った直後は、問い合わせ先が家の電話が鳴りやまず、びっくりしました」と、坪谷さん。想定外の展開



「楽しんで作らせてもらいました」(納富さん)

「並べる順番や写真の大きさを決めるのに悩みましたが、仕事のように編集上の制約がないの

川越街道  
グラントハイツ入口付近  
(昭和25年頃)



グラントハイツ  
ボイラーの2本煙突(昭和30年代)

※写真は『赤塚新町の昭和』掲載のもの



帳元バス停(昭和29年)



手に取りやすい大きさと、デザインもオシャレ♡

で、販売方法や振込口座など細かいことは何も考えていなかっただろう。しかも、問い合わせは、区外や都外がほとんどだったというから驚きですね！

「地方に嫁いだ方が懐かしがつてくれたり、グラントハイツの写真が掲載されていると聞いて買ってくださったり。前橋の方が『今から取りに行きます』と言って、数時間後に本当にやって来たこともありました」

また、他地区で郷土史をまとめたという人からも連絡があったそうです。

「よその地域活動を盛り上げるきっかけになれたのはうれしいですね」

## 地域の「オヤジ」として

会則や入会費・年会費など細かいことは決めずに、ゆるく地域でつながりを保っているのが、クラブ・ジャビーの特徴。

徴。

「今はママたちの力も借りて、仲良く和気あいあいと活動をしていき、飲み会をやったりしていますよ。まあ…たまにはオヤジたちだけの時間も作りたいですけれどね(笑)」



「石垣島から注文が来たことも」(坪谷さん)

りすることも。

「うれしいことですよね。ジャオクラブの頃から、『近所を歩く時でも、一歩外に出たらちやんとしなくちゃいけない』という意識がメンバーの中に育っているんです。子どもたちの成長を願うなら、自分たちも成長しないとね」

赤塚新町で、見守る対象が子どもから地域へ、そしてこれからは…？

メンバーは40代から60代まで約30名。道で面識のない女性から「子どもがお世話になっています」とあいさつをされたり、団地のエレベーターで知らない子どもに声をかけられた

「今はママたちの力も借りて、仲良く和気あいあいと活動をしていき、飲み会をやったりしていますよ。まあ…たまにはオヤジたちだけの時間も作りたいですけれどね(笑)」

は、町会主体でシニア向けの体力測定を開催することだそう。年をとる重ねながら、その中で自分たちができることを考えていく…。そんなカッコイイ「オヤジ」たちの「これから」にも注目です！

■写真集の購入申し込みはメールにて club1jabee@yahoo.co.jp 1冊 1,000円